

脱施設化ガイドライン案への世界のコメント（2022年6月）　No.89

ピープル・ファースト・ニュージーランドから

緊急時を含む脱施設化に関するガイドライン案への意見

**Submission to the draft Guidelines on Deinstitutionalization, including in emergencies from** **People First New Zealand**

**団体について**

ピープルファースト・ニュージーランド・ガ・タンガタ・ツアタヒ（People First New Zealand Nga Tangata Tuatahi）は、障害者団体であり、学習障害（learning disability）者により運営される、学習障害者のための全国規模の自己権利擁護組織です。

ピープル・ファーストNZは、「知的障害」（intellectual disability）ではなく「学習障害」（learning disability）という言葉を使います。その方がより尊重されるとメンバーは考えています。

ピープルファーストNZは、1980年代にニュージーランドで設立され、18年以上にわたって独立した法人として活動しています。ニュージーランドには40の地域グループがあり、メンバーは毎月集まり、自分たちの権利とそのための発言方法について学んでいます。

ピープルファーストNZのメンバーになるには、18歳以上の学習障害者であることが必要です。

ピープルファーストNZのメンバーは、次のような自分にとって重要な問題について発言しています。

* 他のすべてのニュージーランド人と同じ権利を持つこと
* 地域社会の一員であること
* ニュージーランドの市民であること。

ピープルファーストNZは人権の枠組みで活動し、学習障害のある人々が良い生活を送れるように、国連障害者権利条約（UNCRPD）を実施するために活動しています。ピープルファーストNZは、UNCRPDの権利を実現するために活動している障害者団体連合のメンバーでもあります。

ピープルファーストNZは、「やさしくする」（Make It Easy）という翻訳サービスを運営しており、情報をEasy Read（わかりやすい版）（日常の言葉や絵）に翻訳しています。Easy Readは、学習障害のある人、識字率の低い人、英語を第二言語とする人にとって、より利用しやすい様式です。

ピープルファーストNZは、学習障害者の権利や支援に関する情報・アドバイスも提供しています。私たちは、学習障害者のためのコースを運営し、より広い地域社会に対して教育的な情報提供行っています。

**本意見提出を行う理由**

ピープルファーストNZは、障害者の問題、特に学習障害者の権利について発言することが特に重要だと考えています。

脱施設化は、ニュージーランドや世界中の学習障害者にとって大きな問題であり、この分野ではまだ多くの取り組みが必要です。

**私たちはどのようにこの意見を作成したか**

ピープルファーストNZは、9人のPeople Firstメンバーとのオンラインでの協議会を開催しました。メンバーは全員、学習（知的）障害を持ち、年齢層は20代から60代にわたります。また、大規模施設やグループホーム（小規模施設）での生活経験がある人もいました。

ピープルファーストNZは、協議の会でわかりやすい版のガイドライン（訳注　国連の分かりやすい版（Moving people out of institutions United Nations Guidelines easy read）を使用しました。このガイドラインはスクリーンで共有され、ファシリテーターが1ページずつ表示し、メンバーに感想を聞きました。私たちは、会員の生の言葉をもとに、会員がガイドラインで取り上げてほしいポイントを引用して、この意見提出を書きました。

**私たちの考え**

全体として、脱施設化ガイドライン案を見てとても嬉しく思っています。

ピープルファーストNZのメンバーは、ガイドラインのわかりやすい版を見たうえで、次のように質問されました。

ガイドラインのポイントに賛成しますか？

* 賛成できないことがあれば、何が足りないのでしょうか？
* また、何か追加することはありますか？

**内容　-　はじめに**

メンバーはすべての点に賛成しました。

**内容　-　施設**

施設に関する一般的な記述のリストについて、メンバーは同意しました。

コメントは以下の通り：

　（訳注　以下、ページ数やパラグラフ数は、英文のわかりやすい版のページ・パラグラフ数を示す。）

**6ページ、パラグラフ3**（訳注　・同意していない治療をされる）

「私は過去に電気ショックを受けたことがあり、一定期間一人だけにされ、地域に出ることが許されませんでした。」

「施設は刑務所のようなもので、冷蔵庫も食料品室も鍵がかかっていて、職員が食べ物に鍵をかけていました。」「職員が食事の内容を決め、選べず、気に入らなければ食べられず、食事は与えられませんでした。

「隔離室に送られ、皆から遠ざけられました。」

コメントの重要ポイントは：

* 薬物による鎮静、電気ショック、隔離など悪い扱いが今後起こらないようにすること。
* 医学的な理由で食事が制限されている場合を除き、自分で食事を選び、食べたいときに食べられるようにすること。

**内容　-　ガイドライン**

メンバーは、すべてのポイントに賛成しました。コメントは以下の通り。

**7ページ、パラグラフ1**（訳注　政府にやめてもらいたいこと）

「確かに、大きな施設は閉鎖されましたが、人々は小さな施設　-　グループホームに入れられました。」

「支援サービスには、まだ施設的な考え方や発想が残っています。」

「支援補助金の中には、柔軟な対応や地域社会での支援もありますが、まだ限られています。」

「障害のある若者の中には、介護療養施設（Rest Home）や認知症ケアホームに入らなければならない人もいます。」

コメントの重要なポイントは：

* 施設は建物だけでなく、人々の固定概念でもある。施設や施設化された考え方を終わらせる必要があります。
* 支援職員は、人権と、人々がどのように生きたいかを選択することを支援する方法についての研修を必要とします。
* グループホームは小さな施設です。
* すべての障害者が利用できるさまざまな生活の仕方の選択肢が必要です。

**9 ページ、パラグラフ 1と2**（訳注　・・・政府は、障害者支援にお金を使わなければならない。地域社会を支援するための計画づくりには、施設を出て地域社会に移る人々も参加する必要がある。）

「所得手当の支給額を増やし、施設からの退去時に利用できるようにし、彼らが自活できるようにすること。」

「地域社会で生きていくための生活技術を身につけさせること。」

「人々は、もう一度生きることを学ばなければなりません。」

コメントの重要ポイントは：

* 障害者が施設を出た後、生活スキルや経済的なサポートがないために、貧困に追い込まれることがないようにすること。
* 障害者が生活するのに十分なお金を持てるようにすること。
* すべての人が支援計画を持ち、訓練を受けられること。

**内容-ガイドラインに従う**

メンバーは、すべてのポイントに賛成しました。コメントは以下の通り：

**10ページ、パラグラフ1、2**（訳注　ガイドラインの実施 政府がガイドラインに従えばできること）

「政府は、どの政権でも、ガイドラインに従う必要があります。」

「支援制度をより簡単にし、すべての政府機関が協力すること。」

「家族支援の早期開始。」

「保護の仕組み。すての人が安心して暮らせる地域社会。」

「職員／支援者／サービス事業者のための正しい資源と正しい訓練。」

コメントの重要ポイント：

* このガイドラインはすべての政府が使用すべきであり、国の政権が変わっても脱施設化計画を中止すべきではない。
* 政府は、支援職員への適切な資源と適切な訓練によって、障害者を支援する責任がある。
* 新しい制度には、アクセスしやすく、理解しやすいようにすること。
* 適切な情報と資源で、早い段階から家族を支援すること。

**11ページ、パラグラフ4&5**（訳注　障害のある人のニーズに合った手ごろな価格の住宅を提供する．　障害のある人に関するあらゆる決定に、障害者とその団体を参加させる．

「社会住宅は安全な地域にはありません。障害者のための手頃な値段の住宅は、交通の便がよく、医療や教育、ショッピングセンターなどにアクセスしやすい場所にあるべきです。」

「私の支援サービスは、私のニーズは気にせず、お金のために私をサービスに留めようとします。サービスはいつも利用者に知らせることなく、その都合で変わります。」

コメントの重要ポイント：

政府は、障害者が施設を出るときに、住居の支援をしなければなりません。そうして、人々は地域で望む生活を送れます。

**12ページ パラグラフ4**（訳注　障害のある人の意思決定を尊重し、施設からの退所計画を支援する.）

「意思決定支援がもっと必要です。私たちのことをよく知る人たちに意思決定をサポートしてもらいたいです。意思決定に関しては、アクセスしやすく、包摂的な情報、例えばわかりやすい版が必要です。」

「小さなグループホームや小さな施設に入れるのはやめてほしい。」

コメントの重要ポイント：

* すべての障害のある人のために、包摂的でアクセシブルな情報を提供する必要があります。学習（知的）障害のある人々にとって、これはわかりやすい版の情報やビデオによる説明です。アクセシブルな情報は、理解や意思決定を助けます。

**15ページ パラグラフ2&3**（訳注　障害のある人の施設退所をうまく支援しているか情報を収集する．　障害のある人の施設退所を支援するために政府が行っていることが、世界中の人々にはっきりとわかるようにする。）

「人々を施設から出すには、そのための計画が必要です。人々が地域でどのように生活しているかを示す調査を行わなければなりません。」

「多くの家族/親は、非常にニーズの高い若者/大人のために頼る術がありません。施設に戻さないという意味でも、子どものケアは必要であり、政府は家族・親への支援にもっとお金をかけるべきです」。

「家族や障害のある人に、選択肢を与えず、これしかないと言うのはやめてほしい。」

「施設の閉鎖には、障害のある人とその家族の協力が必要です。家族が決めると、本人が望んでいないことになることもあり、人権に沿わないこともあります」。

コメントの重要ポイント：

* 障害のある人とその家族は、施設からの退出のプロセスに参加しなければなりません。
* 障害のある人が地域でどのように生活しているかを示す研究を共有すること。

**特定のグループに対する不当な扱い**

メンバーはすべてのポイントに賛成しました。

**障害のある女性や少女**

メンバーはすべてのポイントに賛成しました。

**障害のある子ども**

メンバーはすべてのポイントに賛成しました。

**ガイドライン（案）への最終コメント**

コメントは以下の通り：

「早く世界中で変化が起こることを願っています。」

「良かった。以前は大きな施設にいたが、小規模グループホームが小規模施設の一形態だとは知らなかった。本当の地域社会で暮らすことを願っている。」

「会議に出席し、自分の意見を言うことができて驚きです。完成した文書を読むのが待ち遠しいです。」

「ガイドラインは、世界中の障害のある人＆家族の助けになります。」

ガイドライン案に意見を出す機会をいただき、ありがとうございました。何かありましたら、問い合わせ先までご連絡ください。

ピープルファースト・ニュージーランドガ・タンガタ・ツアタヒNga Tangata Tuatahi

シンディ・ジョーンズ　社会福祉学士（名誉）

ナショナルマネージャ

ピープルファーストNZ 0276841061

cindyjohns@peoplefirst.org.nz 私書箱 9199

ウェリントン 04 3813242

（翻訳：佐藤久夫、岡本明）